

日曜日礼拝順序

憩いの場

2017年3月26日 午前11時 南部チャペル

“初穂のよみがえり”

前奏 頌栄	539	武井里花姉
開会の祈り 主の祈り 交読文	14 詩篇50篇	Scroggins 由紀牧師 一同
賛美歌 祈りの時	9 “ちからの主を ほめたたえまつれ”	Scroggins 由紀牧師
聖書拝読	ダニエル書12章1-4節	下竹博兄
賛美歌	242 “悩むものよ われに来よ、と”	
説教	“終末について”	中村朗牧師
賛美歌 献金 報告 頌栄 祝福 後奏	516 “主イエスを知りたる うれしきこの日や” 541	下竹由美子姉 中村朗牧師 武井里花姉
(礼拝終了:奉仕開始)		

交わりの時	礼拝後	南部チャペル
-------	-----	--------

“しかし事実、キリストは眠っている者の初穂として、死人の中からよみがえったのである。”（コリント人への第一の手紙15章20節）

今年のシカゴはあまり冬という気がしないうちに過ぎていった気がします、それでもまだ暖かいというところまではいっていませんね。このところ、チューリップやヒヤシンスの芽が教会の近くの家の前にも顔を出していますが、寒さに耐えているようです。しかし植物の中でも、寒い時期にはじめて顔を出す、芽の部分には生命の勢いと感動があるような気がします。日本では旬のものを食べると体にいいという話を聞きますが、旧約聖書の中でも収穫の初穂を神にささげる祭りがあります。それだけ価値があるという意味なのでしょう。そしてコリント書でパウロは主イエスのよみがえりを初穂、という表現であらわしています。尊き初穂として、主イエスは初めて死人の中からよみがえられたのです。

私たちと同じように地上で生きられ、十字架への道を歩まれた主イエスのよみがえりは、弟子たちの悲しみから来た幻想ではなく、聖書の預言に基づくものであり、信徒の希望の中心となるべきものです。まだレントの季節は続いていますが、4月のイースターに先駆けて、私たちは多くの人たちが信じていない、主イエスの体のよみがえりについて考えてみましょう。主イエスのよみがえりを信じ、その希望とともに歩いていく、という決心は、ときに世間の人から理解されないこともあります。信仰によって生きるために欠かせない確信です。ご自身の御子、主イエスをよみがえりの初穂として私たちの為に与えてくださった神の深遠なご慈愛に心から感謝します。（Scroggins 由紀）

記事: 消息

— 陳百合子姉、南部 Ethel 姉、南部勝牧師、英語部の Tony Abiera 兄、Joe Feiler 兄、Kate Whitmore 姉、日本に戻られた小坂るみ姉、加納姉のお孫さんの Casey 姉など、主の癒しを必要とされている方々のためにお祈りください。

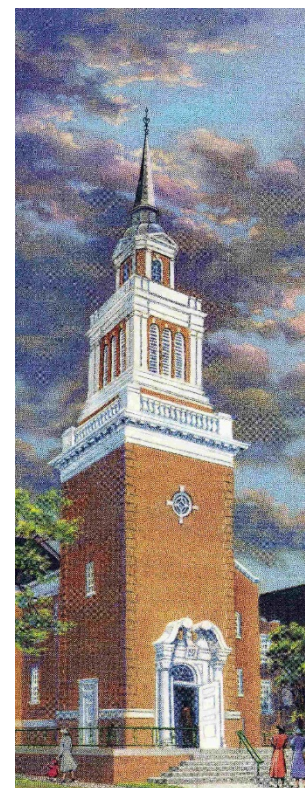
— 3月19日の説教は“大祭司としてのイエス”と題して、ヘブル人への手紙7章26-28節からでした。主イエスは祭司として、ただ一度、十字架の上でご自身を私たちの罪のきよめのためにささげられました。その恵みの故に、主イエスを信じる者は罪からきよめられて、体のよみがえり、永遠の命が与えられています。レントの季節において、わたしたちは大祭司として主イエスがなされた御業の尊さを覚えて、感謝しましょう。

お知らせ

— 本日の礼拝は、中村朗牧師が来られ、終末について、前回に続いてメッセージしていただきます。礼拝後はランチ親睦会がもたれます。皆さん、どうぞご参加ください。

— 4月2日は午後12時30分より、ミッションランチがあり、その後2時から“Know Your Church”という題で教会の組織についての説明と奉仕の機会に関する無料セミナーがあります。どうぞ皆さんご参加ください。

— 最近の移民政策改正の影響を受け、教会においても移民政策にどのように対応するかに関してのタスクフォースを設けることになりました。教会と移民政策に関心があり、タスクフォースに参加したい方は、由紀牧師までご連絡ください。



週報

第3619号
2017年 3月26日

ノースショア バプテスト教会 日本語部
North Shore Baptist Church Japanese Language Group

5244 North Lakewood Ave. Chicago, IL 60640
Phone: 773-728-4200 Web: www.northshorebaptist.org

発行: 2017年3月22日 ノースショアバプテスト教会日本語部
スクロギンズ 由紀牧師 (Rev. Yuki Scroggins)
電話: 773-728-4200 Ext. 26